

2023年9月12日

2023年度 第1回美容科教育課程編成委員会議事録

1. 開会日時 2023年9月12日(火) 11:00-12:30
2. 開催場所 埼玉県理容美容専門学校 浦和校舎 2階 実習室C
3. 出席者 8名

	氏名	所属
1	間山 弘子	一般社団法人 埼玉県美容技術協会 指導講師
2	古川 聡	埼玉県美容業生活衛生同業組合 浦和支部 支部長
3	秋山 幸子	一般社団法人 埼玉県美容技術協会
4	長島 光世	埼玉県美容業生活衛生同業組合 戸田支部 支部長
5	増村 信雄	埼玉県理容美容専門学校 校長
6	千住 義祐	埼玉県理容美容専門学校 教務課長
7	吉野 貴子	埼玉県理容美容専門学校 美容科主任
8	橋本 有美	埼玉県理容美容専門学校 学生生活委員長

4. 学校長 開会挨拶 (増村校長)
参加へのお礼とともに、教育課程について忌憚のない意見を求める。
5. 2023年度第1回・教育課程編成委員会の目的 (司会・千住課長)
 - (1) 教育課程編成委員会の位置づけは職業実践専門課程・必須条件としての組織となる。
そのため、本会議の議事録はホームページ等で情報開示されることをご了承いただきたい。
(異議なし)
 - (2) 尚、開催期間は原則、前期1回目・後期2回目の年2回を予定しているのでご協力をお願いしたい。
6. 2022年度の報告
卒業生数 70期生 111名
国家試験結果 111名 全員合格
進級者数 71期生 115名 (入学時120名)
7. 2023年度の報告
入学者数 72期生 114名

その他

吉野 現況として、2023年度はすでに早期退学者が出ている。退学理由としてメンタルの弱さが原因であるケースが目立つ。コロナの影響により、学校に休まず通うという意識が非常に希薄であり、多少の体調不良でも休むことが常識と考えられていると思われる。

また、メンタル面で不安定な学生が増加傾向にある。

こうした学生は義務教育の段階から保健室登校などの配慮を受けている。

そのため、継続して専門学校でも同様の配慮を求められるケースがある。

71期生の主な1年次退学理由は、家庭環境の悪化による生活全般の問題、特に金銭面で家族の協力が得られず学費が支払えないケースが多い。また、友人関係のトラブルからメンタルに変調をきたして退学する者もあった。

8. 前回2022年度に意見・提案のあった点を、2023年度前期において修正あるいは取り入れて実施できているかに関する報告

(1) 2022年度の意見・提案による2023年度の取り組み目標

- ① 挨拶に声を出す
- ② 笑顔
- ③ まずは体験させる
- ④ 交換授業の回数を増やす
- ⑤ 気配り心配りのできる学生づくり
- ⑥ 名もなきサロンワークの大切さ
- ⑦ メンタル勉強
- ⑧ 学生に寄り添う意識
- ⑨ アクティブ・ラーニング
- ⑩ カウンセリング・コンテスト
- ⑪ 一般的なマナー

(2) 目標に対する達成の報告

- ① 挨拶に声を出す
- ② 笑顔

吉野 /声を出すという事は朝の挨拶から指導している。ボリュームのTPOがまだ理解できていない。教員からの声出しに反応している側面もある。笑顔については、朝のホームルーム時に指導をしている。

橋本 /4月入学時に挨拶のマナーを指導している。マスク使用のため、笑顔は指導しづらい言葉のトーンなどは適宜指導している。

間山 /1年生の様子が幼稚になってしまっている。指導の仕方が難しい。かまって欲しい気持ちがある。社会人としての素養が大きく足りていない。

教員や講師が友達のような関係になって初めて、心を開く。

理屈ではわかっている、自分で考えることができない。理解に時間がかかる。

導く手間を惜しんでしまうと指導はできない。自分で問題意識をもって解決のために考えることを訓練する必要がある。与えるだけではダメである。

千住 /高等学校でも、かなり学生が幼稚になっている。現在の在學生は中学以降の学生生活がコロナ禍であったため、年齢に応じた社会的経験が欠如している。

間山 /日本文化での指導でさまざまに工夫はしているが、本来マンツーマンであれば指導できても、大人数では対応ができないことが悩みである。

在校生は、基本的に素直な側面があり、教える側のアプローチによって変わるものと認識している。

教員自身が自分との戦いに勝って我慢して克己心がなければ難しい。

長嶋 /確かによく言えばピュア。浴衣着付けの「襦先を上げる」で自分のつま先を上げてしまったことがある。知らないからできないのであって、ふざけているわけではないことを認めるべき。パニック障害だと言ってきた学生もあった。

③ まずは体験させる

吉野 /1年生に関して、実務実習は9月末から実施することで早めに美容の仕事の現場を体験してもらう予定である。

千住 /実務実習はコロナ禍により実施が難しかったが、今年度は就職活動への導入も含めて1年次9月から実施し、進級時、2年次7月と段階的に進める予定である。

橋本 /教員と一緒に清掃などを実施することで、生活面で一定の体験ができている。指示するのではなく、一緒にやらないと身につかないと考えている。

秋山 /教員がやって見せるのは良い事。家庭環境で学んでいない学生が多い。

掃除にせよ、お茶入れにせよ、しっかり教えていただきたい。

④ 交換授業の回数を増やす

吉野 /交換授業として、先輩である2年生が1年生の授業に入り基礎技術などを指導する企画を現在実施中である。先輩は後輩に教える事で生き活きとしている。

古川 /この取り組みは何年くらい続けていますか

吉野 /10年以上継続している伝統的なものである。

古川 /技術だけでなく、マナーや取り組み姿勢は先輩が教えることも良いかと思う。

橋本 /教えるという事は、自分自身が教えるにふさわしくならなければならないので生活全般の指導に有効だと考える。

⑤ 気配り心配りのできる学生づくり

吉野 /自己中心的な学生が多く、他者への思いやりなどを考える力が不足している。

秋山 /相モデルについて、お互いのフィードバックをすることが大切。

ただ「やる」のではなく、2年生が1年生に先ず挨拶をしていくこと等、能動的な働き方があれば、互いの意識づけができるのでないか。

橋本 /それはすぐに取り入れていきたい。

⑥ 名もなきサロンワークの大切さ

吉野 /掃除や整理整頓などは、日常の指導の中で先生が声掛けなどをしてはいるが、通路に荷物を置いてしまったりすることなど、他者への配慮が身についておらず、自分のものでないと気が付いてもやらない傾向がある。

古川 /一つ一つの事柄ではなく、本質を知ること教えて欲しい。

間山 /気配り心配りは体験や経験からでないと、身につかない。

教員の指示で動かすのではなく学生たちに考えさせるチャンスを与えて欲しい。

また、日直など担当の学生は学生の中に置くのではなく、代表として前に出てやらせる。先生は見守って出来るのを待つ姿勢も必要ではないか。学生に違う視点を、体験させることが大切と考える。

千住 /最近の学生は気質的に、嫌なことから逃げる傾向もある。

間山 /日本文化の授業では、今年から担当の学生に片付けさせ、連絡もさせている。

責任をもたせてやらせれば、出来ている。学生を信頼することも大切。学生が主役であることが基本ではないか。

秋山 /教員も、褒める、アドバイスするという視点で指導をしていかないと学生の気質に合わなくなっている点もある。

⑦ メンタル勉強

吉野 /2022年度より、短大から心理学の教授を招聘し、コミュニケーションやメンタル・ヘルスについて考える機会を作っている。今年是一年生が入学して早いタイミングで実施をした。

千住 /来年度より「リベラル・アーツ」という科目を新設し、多様な一般教養科目の1つとしてメンタル・ヘルスの学習を取り入れる予定である。

⑧ 学生に寄り添う意識

吉野 /今年度から教員が「聴く」という意識をもち、2者面談などを計画している。

実施時期は前期後期の切り替えにあたる9月下旬の「期間休み」を活用する予定である。

⑨ アクティブ・ラーニング

吉野 / 教員による一方向的な講義形式ではなく、学生の能動的な学習への参加を促すため、希望者を募って各種のフォトコンテストなどへの参加を計画した。雑誌「百日草」主催の帯結びコンテストでは、プロの参加がある中で5人のうち3人が入賞を果たすなど一定の結果が出た。

また、外部講師による授業では「創作」といった自由な発想が活かされるカリキュラムにより、学生の能動的な取り組み姿勢は向上している。

古川 / 学内コンテストなどを計画するとき、学生同士で採点をする 것을推奨したい。また、制作時からチームを組んでやることで、問題解決を共有でき、コミュニケーションも良くなる。フィードバックがあることが良い結果につながるのではないかな。

⑩ カウンセリング・コンテスト

千住 / 今年度は引き続き検討事項である。

⑪ 一般的なマナー

吉野 / ビジネス・マナーは社会科学の授業などでやっている。

長嶋 / まず、学生と教員との信頼関係が基本である。学生が必要とするときに助言ができる環境があれば、効果的に指導できるのではないかな。

(1) 2023年度後期に向けての取り組み

- ① 褒めることを中心に指導していくべき
- ② 「体験」は教員と学生が共有する事を意識する
- ③ 挨拶やマナーは授業でやらせるのではなく、日々の生活の中で自然に身につける
- ④ 教員のファシリテーションが大切ではないか
- ⑤ 立場を変えることらよって、社会を多角的に見る体験をさせる。
- ⑥ 名もなき仕事 … 心の豊かさ、想像力、自分の力を役立てる勇気だと指導して欲しい。

9. 総括(司会 千住)

後期の学生指導は、教員が指示に従わせるというスタンスから、学生の自発的な行動を導き出すため、教員がファシリテーションを計画するという取り組みが提案された。

10. 閉会

校長 / 委員の皆さんから新しい視点を、今回では得ることができた。非常に意義のある意見であり、後期の学校運営の中で日々の指導に活かしていきたい。